

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



同僚の府野陽子さんとともに

一昨年6月に開所した“やすらぎの郷居宅介護支援センター”も、ヘルパーステーションを追うように、もう3年目。昨年9月から二人体制になり、相談しながら仕事ができるようにもなりました。

笑顔で訪問し元気も届けていければと意識していますが、勇気づけられたり教わることも多く、人生の先輩方に頭が上がりません。「生きていくのは大変なことだよ・・・」、たくさんの思いを飲み込みながら穏やかに話してくださいます。“その方らしく生きていくサポート”ケアマネジャーとしての役割を、ご家族様と一緒に悩み一緒に考えながら歩いていきたいと思っています。

その笑顔に会いに行くのが楽しみになってきている三年目でもあります!!

宇佐見 芳子 〈ケアマネジャー〉

みんなの広場



茨城から福島に



私の出身地は茨城県、父が他界して一人暮らしで取り残された母は、と思ったと時にはすでに両足が不自由で車いすレベル要介護3となっていた。私といえば当時は会津医療生協への単身赴任中、3人兄妹はそれぞれ他の県で独立していた。そこで浮上したのは福島市の「老健はなひらの」へ入所するという案、「わたり福祉会」には快く引き受けてもらい問題は一人で最後までがんばると言っていた本人をどう説得するかであった。話し合いの上「そうするほかねえべ」との返事で福島への準備を整えた。

いざ明日出発となって私が泊まり込んだ夜、トイレに起きて母の部屋の前を通るとポツンと座っている。「やっぱり福島には行かない」という。理由はさしたるものではない。「うんわかった。ことわることはできるよ。でも明日朝

になってからだね」と言ってその場はやり過ごした。そして夜が明けた。先に起きていた母は福島に行く準備、もうこの家に帰ることはない、とばかりに不自由な足腰なりにてきばきと。車に乗り込んで3時間、無事に福島に到着した。

ほどなく「特養はなしのぶ」への通常入所となり介護スタッフの皆さんともなじんで5年ほど悠々と暮らし90才代に手が届きかけたころ、私も会津から福島に戻って間もなく、割とあっさりとわたり病院で他界した。「お骨なら交通費はかからない、福島で火葬して茨城のお墓に埋葬してくれ」と曰ごろから言っていたとおりにした。

あの日の夜「やっぱり福島にはいかない」と言ったことを話題にすることはなく母とは永遠の別れとなった。「せっかく準備したのに今さらそんなことは言ってはダメだよ」と説得しないでもよかったなと思う。

〈会員 松本 純 医師〉



生活支援ボランティア・
ホームヘルパー募集！



調理・清掃・草刈・傾聴等々のボランティアおよびホームヘルパーを募集しています。問い合わせは事務局まで



やすらぎの郷いの

平成 28 年度総会が開かれました 5/28

5月28日あびすやフードセンター2階で、午後6時30分から開会。新村章さんを議長に選出し、会員36名中出席者20名、委任状提出9名の参加により、報告承認2件（27年度補正予算）、議案5件（27年度事業報告、27年度決算・監査報告、定款の一部改正、28年度活動、28年度予算）について、原案どおり全会一致で承認されました。

27年4月の介護報酬の改定（引き下げ）により、訪問介護報酬が前年度比90万程度の減収が想定されましたが訪問介護



利用者増と、昨年9月から非常勤ケアマネージャー1名増員等により、次期繰越財産が437万円となりました。

長期借入金残額250万円は、28年度当初で返済を終了することができました。

定款変更は、福島市・川俣町、が、28年3月から要支援認定となる方等の訪問介護サービスを「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行したため、それに応じて当法人の実施事業に「介護予防・日常生活支援総合事業」を追加するものです。



同会場にて、第2部 懇親会が和やかに行われました。



●<連載その3>● 認知症のことをもっと知りましょう



認知症の人の気持ちをくんで接しましょう。

(悩みその1) 何度も同じことを聞いてきます

今日は何日で何曜日という、認知症の人が必要としている情報を伝えることは、安心することにつながります。何度も同じことを繰り返して答えるのは、ときには耐えがたくなることもあるでしょう。そんなときは、「そうそう、さっきテレビで〇〇のことを聞いていたよ」など、話題をそらしてみましょ。ストレスが溜まってしまう場合は、認知症の人の側を離れて気持ちを落ち着かせることが必要です。デイサービスなどを利用するのも一つの方法です。

(悩みその2) 会話が成り立たなくなってきました

余裕をもって、ゆっくり話を聞く

姿勢をみせることが大切です。あせらなくても大丈夫、ゆっくり聞いていますよ、というメッセージを表情や身体全体で伝えるようにしましょう。「お茶？」と、湯呑を見せて聞いてみるなど、ヒントになるような物を使いながら、言葉かけをしてみましょう。

(悩みその3) 入浴をいやがります

入浴は服を脱ぎ、体を洗ったり、タオルで体を拭いたり複雑な動作が必要です。これは認知症の人にとっては、とても混乱をきたす行為です。一連の行為そのものを組み立てられなくなっているため、それを人に知られたくないと思い、入浴をいやがることがあります。強くすすめるといっそう強く嫌がります。日中に、介助者がゆったりした気持ちで行えば、本人も落ち着いて入浴できます。部屋でお湯のバケツに足を浸すなどから始めて、「お風呂はもっと気持ちいいですよ」と話してみましょ。

熊田 吉弘 記



NPO やすらぎの郷いいの

福島市飯野町字前川16

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

一口一言

”石の上にも三年”といいますが、私たちNPO法人もこの8月で設立丸3年、多々感謝・益々元気に！の想い新たです。

この会報も、皆様の「かけはし」となるべく6号目です。

年々暑くなる夏、ともにイキイキのりきりましょ。

(S)